



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2014/04/18(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 144

北海道総合選手権大会に出場するチーム指導者の責務について

指導者育成委員会  
谷口 敏弥

## 第68回全道総合選手権大会

☆男子 宮田自動車5年連続22回目の優勝

☆女子 アカシヤクラブ2年連続4回目の優勝

当時の北海道バスケットボールの聖地ともいえる中島スポーツセンターが満員となり、観客は入場料を払ってでも観戦していた北海道バスケットボール総合選手権大会に私が初めて選手として参加したのは、高校2年生の冬でした。

その時の私は、高校生チャンピオンという根拠のない自信から普段接する機会のない、大学生や社会人のチームを目の当たりにしながらも、臆することなく試合に挑み当然勝利するものと考えていました。

結果は高校生らしく脚力を生かした走るバスケットで100点以上得点するも、対戦相手の社会人チームは、それ以上の脚力と体力で私たちの得点を上回り、人生で初めて100得点して試合に勝利できなかったことをいまだに覚えています。

その時、私は高校生ながら北海道の高校で一番になったとしても、バスケットボールの技術はまだ未熟で確実性がなく、少し天狗になりかけていた私自信に大きく影響を与えてくれた大会でもありました。

その経験から、私が思う総合選手権大会の真の目的はただ北海道No.1を決める大会ではなく、各カテゴリーを代表して参加するチームが一堂に集まり、そのプライドを賭け、しのぎを削るような試合をすることで観るものを魅了し、自分たちが各カテゴリーの主管連盟の協力を得て成長した姿を観客は勿論、バスケットボールを続ける子供たちに知らせる唯一の大会だと思い、私も実業団チームの代表者としてプライドを持って、他のカテゴリーの社会人チームや大学生チーム、そして何よりも高校生チームには絶対負けてはならないとこの大会に参加する際には信念を持って臨んでいます。

しかしながら、ここ数年のこの大会は男子の決勝戦が始まるころには、一部のチーム関係者と大勢の役員のみが観戦しているという状況で、過去と比較しても北海道のNo.1を決定する大会としては決して、満足できる状況ではありません。

今年度の大会を振り返っても、男子の決勝戦は10年連続同一カードの宮田自動車、札幌市役所の対戦となり、内容も決して観る者の心を引く緊迫した好ゲームとはほど遠く、

決勝戦に進んだこの実業団チームの代表者としても反省の弁を述べることしかできません。

また、道内では社会人よりも練習環境が充実している大学生のチームが全て1回戦で敗退したこと、高校生チームで出場した東海大学第四高校が大学生や社会人チームを打ち破って上位に勝ち上がるなど、観戦する側にしても高校生の勝ち上がりは興味があるものの、先に述べた参加した後輩たちへの今後の成長過程の伝授とはならず、観戦する側は勿論、参加する選手にとっても非常に価値のない大会になってしまったことは、今大会に出場した高校生チーム以外の指導者はこの現状を踏まえて猛省しなければならないと考えます。

北海道総合選手権を昔のように試合が活気にあふれ、観戦する側が興奮し、高校生チームが多数参加し、子供たちがその試合で何かを得られるような大会にする。そのためにも各カテゴリーを代表して出場するチームの指導者の責務として、参加する以上はチームとしてのその年の最高のパフォーマンスをこの大会で披露し、観戦するものに感動を与える白熱した戦いができるよう年間を通してチーム作りに取り組みなくてはならない。

これからの私たち指導者の責務は、先人の指導者達がこの大会に参加した子供たちに何らかの影響を与えるチーム作りに力を注いだように、子供たちに何らかの影響を与えるチーム作りに挑み、誰もがこの大会に参加したい、観戦したいと思う、子供たちの将来の道標となるような、北海道の最高峰の大会と呼ばれるようにすることではないかと考えます。

現在、優れた選手育成と強いチーム作りには指導者の存在は何よりも重要な要素と考えられ、2015年度からのコーチライセンス完全義務化に向けて、各都道府県の指導者育成委員会を中心に指導者の育成に力を注いでおります。

それに伴い指導者の皆さんもすでに資格取得が進んでいると思いますが、これをライセンス取得の機会をとらえ、単に資格を取得するのではなく、講習を通してたくさんの指導者との意見交換等により、今一度指導者の基本に立ち返り、指導者としての資質の向上を目指して北海道のバスケットボールの発展に寄与していただきたいと思います。